

水戸芸術館音楽紙 [ヴィーヴォ]

vivo

9 SEPTEMBER 2002

CONTENTS

ピーターとおおかみ	1
Portrait/矢部昌子	3
日本のうたセミナー、 茨城の名手名歌手たち 第13回	3
最近の公演から	4
インフォメーション	6



ピーターとおおかみ
(写真提供:静岡音楽館AOI)



小さな聴き手たちをコンサートホールにお招きします 9/28(土) お話しピアノ ピーターとおおかみ

水戸芸術館がひさびさにお届けする、小さな聴き手のための音楽会!今回は子供のための音楽として世界中の子供たちを魅了してやまない、その王道を行く語りと音楽によるプロコフィエフのピーターとおおかみの登場です。

企画は、水戸芸術館企画運営委員でもある作曲家の間宮芳生。間宮さんの書いた子供のための作品といえば、スタジオジブリのアニメ映画「火垂るの墓」を思い出す方が多いかもしれませんが。そして出演は、間宮さんに加え、現代作品演奏のスペシャリストで芸術館で1995年から97年にかけて開催した「ぞうのババール」公演などでお馴染みの高橋アキさん、そして、NHK大河ドラマ『太平記』、『秀吉』、『利家とまつ』などにも出演している和泉流狂言師の野村万禄さんという顔ぶれです。

さて、今回の公演の特徴は、何ととっても、狂言師野村万禄さんが語りをつとめるところではないでしょうか。その魅力を間宮さんは次のように語っています。

「伝統の狂言には、狂言師が、しばしば、人間でないものに扮するものがあります。人間に化身した人間以外の生きものを演ずることも。中には蚊が人間に化けて、相撲が強いのが自慢の男と、相撲をとって、男はうっかりさされて、コロリと負け

る。くやしくて、もう一ちょう相撲をとり、今度は男はウチワで扇ぐと、蚊は身体がフワフワ浮き上がって相撲にならない.....。

こうした現実をとび越えた、空想の世界を演じ、語る時、狂言のわざはともさえるのです。

それで、自由な、空想と冒険がたくさんのお話しピーターとおおかみの、そしてサティの詩と音楽がつれてゆく、夢の世界へのみちびき手として、狂言の伝統的な語りのわざがさえるのです。」

また、プログラムは、ピーターとおおかみに加え、サティの 子供の音楽集 と間宮さんの 家が生きていたころ と 地球のともだち が演奏されます。しかも、家が生きていたころ は、この演奏会のために間宮さんが特別に書き下ろしてくれる作品です。どのような作品なのか、間宮さんにお尋ねしたところ、「エスキモー(イヌイット族)の古いいつたえに、『大昔、人と動物がともに暮らしていたころ、動物は人になれたし、人も動物になれた。そして、同じことば、魔法のことばをしゃべっていた。』というのがあります。

実は命を持っていたのは、動物や人間だけでなく、木や石や、人間が家をたてて住むようになってもその家も生きていて、飛んだり、人のことばがわかったりすると信じて来たのです。そんな人々が経験した話として、伝えられているのが、今回の

新作 家が生きていたころ で用いた話です。」と教えていただきました。

すべての作品がピアノと語りにより上演される今回の演奏会。高橋アキさんの表情豊かで美しいピアノとエネルギッシュでユニークな野村万禄さんの語り、皆さんを空想と冒険の世界へと誘います。

さて、この後は野村万禄さんと高橋アキさんのインタビューを掲載します。黒砂糖! が食べなくなるかも?!

.....
「森の様子、動物たちのこと、ピーターのことを想像してみてください」

野村万禄さんインタビュー
.....

今回は、高橋アキさんのピアノとの組み合わせで、語り手としてご出演いただきます。狂言では笛、小鼓、大鼓、太鼓による囃子を伴って演ずる場合がありますが、今回はピアノの演奏と合わせて語りを入れていただきます。野村さんが演ずるにあたって両者の音楽の決定的な違いというのは、どのような点にあるとお考えですか?

野村:狂言の場合、4つの楽器の囃子演奏は「ア

写真左から；
間宮芳生
野村万禄
高橋アキ



シライ」と言い、狂言が主体で、それを盛り立てるような役割をもちます。一方、今回の「ピーターとおおかみ」をはじめとする公演では、音楽と語りが対等に渡りあっていないとダメです。脇役の「アシライ」とは違い、ピアノの音量に負けないくらい、こちらも地声で張り合わなければいけないと思います。

また、狂言における声の表現と今回の語りとは、どのような違いを意識されていますか？

野村: 日本的なものと西洋的なものの違いとしては、まず着物が違いますよね(笑)。狂言の場合は着物を着て演じるのですが、これは研究者の方から聞いた話ですが、日本人は農耕民族として出発しているから、腰が大事なのです。能や狂言の衣装は、お腹に帯をぎゅっと締めますよね。そして狂言では、そこに力をためて徐々に息を出していく「込み」と呼ばれる発声の表現をします。今回の公演では、狂言の衣装ではおかしいから、洋服を身につけます(笑)。洋服を着てボンと息を出す表現と「込み」の表現はやはり違うと思います。

しかし、何かを表現するという点では同じだと思います。テーマにそって演じ、それがお客さんに伝わらないのであれば、意味はありません。

今回は小さな聴き手の方たちにも楽しんででもらおうと企画した演奏会ですが、狂言の演目のなかにも、子供のためのものというものはあるのですか？

野村: あります。狂言の古典の演目の『^{ぶし}附子』や『^{ふくろうやまぶし}梟山伏』などです。これらは、視覚的にも内容的にも子供たちが理解して楽しめる演目です。

『附子』の話は少しだけしまししょうか。この話は、かつて小学校6年の国語の教科書にも載っていた話です。太郎冠者と次郎冠者という2人の召使いに、主人が家に附子という大毒があるが決して開けないように注意して留守番をしろと言われ、外出します。ダメだと言われるとやりたくなるのは、昔も今も同じこと。2人は、附子が入っていると言われた容器を開けてしまいます。すると、中には黒砂糖が入っていて、2人は美味しい美味しいと全部食べてしまう。さらに言い訳のために、2人は高価な掛物や湯呑を壊してしまいます。やがて、主人が帰って来ると、2人はうそ泣きをしながらこう言います。「留守番中に寝てしまっただけでいいけないと2人で相撲をとって、大切な物を壊してしまいました。死んでお詫びしようと思ひ、附子を食べたが死ねなかった。」ケチをすると大損をするという教訓が隠されているお話です。

ピーターとおおかみ でもテーマは違いますが、

子供たちがこの作品を通して、ピーターの賢さ、勇気をもって大きな力に向かっていくような活力や発想をもってくれればいいなと思っています。

最後に、演奏会に来てくれる子供たちに向けて、メッセージをお願いします。

野村: 狂言は室町時代の頃に成立したもので、無駄なものを省いた簡素美を追求した芸能です。ですからお客さんも想像しながら接してもらわないと理解しにくいところがあります。今回の公演でも基本的には、お客さんの想像力がないと、世界観が小さくなってしまうという意味では、同じではないでしょうか。私のせりふや高橋アキさんのピアノを聴きながら、そして照明による演出を楽しみながら、ピーターとおおかみ では、森の様子、動物たちのこと、ピーターのことを想像してみてください。是非、自分が主人公になったつもりで、イマジネーションを広げながら、お楽しみください。

.....
「ピアノと語りのかけ合いをお楽しみください」
高橋アキさんインタビュー

今回の演奏会では、サティ 子供の音楽集 が最初に演奏されます。高橋さんは、わが国に「サティ再発見」をもたらした第一人者としてもご活躍されてきているのですが、サティの魅力、そして今回の演奏曲である 子供の音楽集 の魅力について、あらためてお話しください。

高橋: サティの音楽は、どの時代に書かれた音楽かわからない、時代を越えて存在しているようなところがあります。それは、サティが音を推敲していくことで、音の数を減らして、非常に簡潔な音楽となっていることにも原因があるのだと思います。とても風通しのよい音楽です。聴き手は自由に音のイマジネーションを広げられるし、弾いている本人にとっても、とてもくつろげる音楽です。くつろいで弾けると言っても、そこにいくまでは、たいへんですけれどね(笑)。

また、サティはちょっと風変わりな、純粹で、子供が大好きで、「1歳の子供がピアノをどうやって弾くのかを知りたい」などと語っています。子供の音楽集 は、子供でも弾けるようにと、どの曲も隣り合った10個の白鍵だけで書かれています。とても自然な形で音楽に入っていける作品です。音楽と一緒に語られる言葉も、サティが自分で作っていて、とても楽しいものです。いたずらっ子やかわいい子供たちが出てくるので、自分たちの友達と一緒にいるかのように感じてもらえたらと

思います。

間宮芳生作品について、今回は新曲も含め2作品を演奏されます。高橋さんから見て、間宮作品とはどのような音楽ですか？

高橋: 間宮先生は、世界の民族音楽をたいへん研究されていらっしゃる方だと思います。ですから音楽というのは私たちが生きる大地や自然や地球とつながっているのだと想い起こさせてくれる、どこか懐かしい根源的なものと、知性との見事な融合を先生の音楽に感じます。今回は先生の新作の演奏もさせていただくことになり、完成を心待ちにしています。

そして、今回のメイン・プログラムである、プロコフィエフの ピーターとおおかみ について、世界中の子供たちに愛されている、その理由はどのような点にあるとお考えですか？

高橋: 原曲は、オーケストラ作品です。お話もプロコフィエフ自身が作っていて、ピーターと動物たちの冒険の物語です。この音楽物語の大きな特徴は、登場人物それぞれが、決められた楽器による特有のメロディーで表わされている点です。小鳥はフルートで、あひろはオーボエで、猫はクラリネット、おじいさんはファゴットで、おおかみはフレンチホルンで、ピーターは弦楽合奏でという具合です。それぞれのメロディーを聴いていけば、子供でも次に誰が出てくるのかがわかるのです。

今回は、この作品をピアノと語りだけで上演します。ピアノでそれぞれの楽器の音を演奏するのは、私にとっても楽しいことです。オーケストラ版よりピアノ版の方が、音楽と語りのかけ合いが、親密でわかり易いと思います。是非そのやりとりをお楽しみください。語りには、和泉流狂言師の野村万禄さんが登場します。彼の狂言で鍛えられている生の声による語りと演技が、きっと皆さんに親しみやすさと同時に迫力のある体験をもたらしてくれるのではないのでしょうか。

最後に、演奏会に来てくれる子供たちに向けて、メッセージをお願いします。

高橋: ピアノと語りのかけ合いの面白さや、それぞれの登場人物ごとに特定のメロディーが決まっていたりとか、そういう部分にも注目してみてください。音楽は音楽だけというのではなく、今度の演奏会では、ピアノも語りも一緒に楽しんで、自由に空想をしてみながら聴いてもらえたらと思います。

《中村》



写真左から;
矢部昌子、
2003年3月の 日本のうた セミナー風景

Portrait

パリの息吹をコンサートホールに届けます 9/8(日)矢部昌子ピアノ・リサイタル

Portrait

記録的な猛暑の続く8月上旬、矢部昌子さんがリハーサルのために来館された。水戸市出身・在住のピアニストとして活発に活動してきた矢部さんだが、水戸芸術館には来る9月8日のリサイタルで初登場となる。熱のこもったリハーサルの後、楽屋でお話をうかがった。

今回、矢部さんが編んだプログラムは、モーツァルト ファンタジア K.397、リスト エステ荘の噴水 オーベルマンの谷、ショパン バラード第4番、ドビュッシー 映像 第1集・第2集 というもの。矢部さんは「ドビュッシーをメインに据えて、それに関連する作品を加えてプログラミングしました。フランス音楽とは関係のないような曲も含まれていますが、ドビュッシーへとたどり着く音楽の歴史の流れを表現したつもりです」と語る。

矢部さんとフランス音楽の出会いは、東京芸術大学在学中にさかのぼる。「それまでは古典派・ロマン派の作品をたくさん弾いていたんですが、大学のときに安川加寿子先生に導かれてフランス音楽を弾くようになりました。芸大時代はラヴェルや

フォーレをよく弾いていましたね。」

そして芸大卒業の2年後、パリの名門エコール・ノルマルへ留学。フランス音楽との関わりをますます深いものにしていく。「パリへ行って一番驚いたのは、皆自由に弾いていることでしたね。日本で学んでいるときは、こう弾かなければいけない、みたいなプレッシャーを感じていたのですが、それがまるでないのです。そういう環境の中でドビュッシーをはじめフランス音楽をたくさん弾くことができました」たしかに、あのフランス独特の自由な雰囲気こそ、ドビュッシーやサティ、メシアンなどの斬新で色彩溢れる創作の母体となっただけでなく、

一見几帳面な矢部さんと自由気ままなフランスと、果たして相性は?「フランス人の自由さって言葉では表現できない独特な感じがありますし、好不調の波もすぐはげしいですよ。パリ管弦楽団の演奏会には何度も足を運びまして、いいときは本当に素晴らしく演奏するオーケストラということなんですが、私が行くときはいつも調子が悪かったみたいで…」と微笑む矢部さんの表情から

は、フランスの自由でおらかな精神に対する愛情が読み取れた。

好きなピアニストを伺うと、ミケランジェリ、ルヴィエ(矢部さんの先生でもある)、ギーゼキング、ペルルミュテール、内田光子らの名前が挙がった。パリパリ弾きこなすというよりは、色彩やニュアンスを重んじた演奏をするピアニストが多いのが、矢部さんらしいと感じた。

さて、3年間のパリ留学の後1992年に帰国してからは、演奏活動のかたわら、水戸第三高校や常磐短期大学の講師として熱心に後進の指導にもあたってきた矢部さん。だがここ数年は、今年幼稚園児になるお子様の育児も重なって「演奏活動はもちろんのこと、芸術館のコンサートに行ったり、CDを聴いたりする余裕もないほど忙しかった」という。今回、復帰後初のリサイタルとなるが、「今まで勉強してきたことを思い出しながらリラックスして演奏して、音楽の美しさを聴衆の皆様へ伝えられたらと思っています」と、力強い意気込みを語ってくれた。 《関根》

日本のうた セミナー第2期スタート! 露風の詩による山田耕筰歌曲の世界

9/14(土)畑中良輔の日本のうた セミナー
第2期「山田耕筰Ⅲ」

昨年秋から始めた畑中良輔講師による日本歌曲の公開セミナー、いよいよ第2期の開講です。今期も公開レッスンに加えて、受講生たちのミニ・コンサート、大物ゲストによるステージという盛りだくさんの構成でおおくりします。

第2期初回のメイン・テーマは、山田耕筰初期の傑作、三木露風の詩による歌曲集 風に寄せてうたへる春のうた。日本歌曲の創作を始めた頃の山田にとって最も重要だった詩人は三木露風でした。ベルリン留学時代、山田は持参した露風詩集『廃園』の一篇から処女歌曲 嘆き を書いています。そして、山田の最初の連作歌曲 風に… もまた、露風の詩によるものなのです。昨年のセミナーで、講師の畑中はこの曲を「陰りある曲調の多い日本歌曲の中で、これは幸福感に満ちていて明るく輝いている」と語っています。新婚の純粋な愛を高らかに謳いあげる露風の詩に山田はぴったりの旋律を書いたのです。セミナーでは、風に… の他に、童謡百曲集 を取り上げ、山田耕筰の童謡作曲家としての側面にも迫ります。また、ゲストにはソプラノ関定子さんが登場。雨情民謡集 全曲を披露していただきます。

第2期は、今後、橋本国彦(12月7日)、平井康三郎(2003年3月15日)と続きます。山田以降の日本歌曲がどのように展開していったのか。第2期もどうぞご期待下さい。

《松田》

【受講生】石橋友子、辻弘子、西田ちづ子、幅野由美(ソプラノ)

【ゲスト】関定子(ソプラノ)田中直子(ピアノ)

とびきりフレッシュな名手たちによる ガラ・コンサート

9/29(日)茨城の名手・名歌手たち第13回

合格者のさらなる精鋭化をはかるため、今年から部門ごとに隔年の開催とした「茨城の名手・名歌手たち」。「鍵盤楽器・弦楽器・邦楽器・邦楽アンサンブル」が対象となった今年4月28日のオーディションには43組が参加し、ピアノ6名、ヴァイオリン1名、箏1名の合計8名が合格、来る9月29日の演奏会に出演します。その内容をかいつまんでご紹介しましょう。

ピアノは、大塚万記子さんがバッハ 半音階的幻想曲とフーガ、平野梨紗さんがリスト オーベルマンの谷、田名部真理恵さんがシマノフスキ 変奏曲 作品3、篠原有紀子さんがアイヴズ ソナタ 第2番 第2楽章、海野智夏さんがスクリャーピン ソナタ 第2番 第1,2楽章、佐藤晃子さんがリスト バラード 第2番 と、ヴァラエティに富んだ曲目が並びました。同じ楽器でも奏者によって驚くほど異なる表情を見せるピアノだけに、出演者それぞれの個性的な音色を存分にお楽しみいただけることでしょう。

今回の出演者の中では最年少、高校3年生の岡部磨知さん(ヴァイオリン)はプロコフィエフの難曲 ソナタ 第2番 第1,3楽章に挑戦。また、唯一邦楽器からの出演となる安田有希さん(箏)は、沢井忠夫 讃歌 で古雅な音色をホールに響かせます。

新たな名手たちの誕生を祝いに、ぜひコンサートホールへ足をお運びください。

《関根》

最近の公演から
JUNE / JULY



1



2



3



4



5



6



7



8

水戸室内管弦楽団第49回定期演奏会
(6月8日・9日)

ひさびさのメンバーのみの公演となった第49回定期演奏会。プログラムの前半は、川崎雅夫のソロによるホフマイスター ヴィオラ協奏曲 と、水野信行のソロによるR.シュトラウス ホルン協奏曲 第1番。いつも一緒に演奏している仲間がソロを務めるだけに、ソリストとオーケストラの息はぴたりと合い、親密な友人との会話を楽しむかのようなかけ合いが聴衆を魅了していた。後半はブラームス 弦楽五重奏曲 第2番 の弦楽合奏版。晩年のブラームスならではの複雑な書法と深い滋味が魅力のこの作品は、演奏者にとってかなりハードな曲だったようで、コンサートマスターを務めた安芸晶子は、練習が終わるたびに「この曲、難しいねえ」を繰り返していた。しかし、そうは言っても加速度的に室内乐的緻密さを増していく密度の濃いリハーサルを積み重ね、本番では熱演で聴衆をうならせた。アンコールは、6月8日がブラームスの第3楽章、6月9日が同第4楽章。《関根》アンケートから全員の連帯感がすごかったです。指揮者がいないのに息がピッタリで、すごくかっこよかったです。全員がいっせいに息つき(弦楽器は何と...)をすところなんか、ぞくぞくしました。(目黒区:R.A.さん) 2つの協奏曲はいずれも素晴らしかった。特にホルンの音色に魅せられました。ブラームス弦楽五重奏曲の合奏版のアンサンブルの素晴らしさはMCOならではのものです。(港区:N.O.さん) コンチエルトの2曲は普段あまり聴く機会のないソロの楽器だったので、たいへん興味深く聴きました。ヴィオラはすごく聴きやすい音域で、すばらしい楽器なのを再確認。ホルンのソロはスリリングで素晴らしかったです。(新治郡:K.E.さん) なんて自由にリズムカル。文字通り、楽器本来の「音」を「楽しむ」素晴らしいプログラムでした。(台東区:M.K.さん)

水戸室内管弦楽団第50回定期演奏会
(6月26日・27日)

水戸室内管弦楽団大分公演
(6月25日)

水戸室内管弦楽団の50回という記念すべき定期演奏会。指揮は、MCO音楽顧問の小澤征爾。更なる飛躍の意志表示であるかのように、今回は実にユニークなプログラムが組まれた。まず、フランスで大きな支持を集めている平義久のMCO委嘱作品 彩雲。リハーサル中、平

はステージに上がり小澤のすぐ傍らに腰掛け、小澤やメンバーと綿密なやり取りを交わした。オーケストラの楽器が様々に組み合わせられて層を織り成していく、その音響はまさに「雲」のごとく漂うものであった。2曲目は、オーボエの宮本文昭がソロを務めて、モーツァルトのオーボエ協奏曲が演奏された。大きなアクションを伴って、天上の音楽のごとき優美な宮本の演奏。小澤も大きなアクションでしかし細心の注意を払いながらオーケストラを導いていった。27日には、宮本の独奏で、プリテンの オウディウスによる6つの変容 作品49 の第1曲がアンコールとして奏された。そして、最後は、ハイドンの交響曲第60番 うかつ者。副題にある通りオーケストラがまさに「うかつ」なことをしてしまう。圧巻は終楽章で、ヴァイオリン奏者たちは調弦が正しくされていないことに気付き、なんと音楽を中断して調弦をし直してしまう。小澤とMCOは、典雅な情趣で聴衆を酔わせながら、幸福感とも置き換えられそうな笑いを振り撒いた。

6月24日には、水戸市内の小中学生をコンサートホールに招き、公開リハーサルを行った。小澤は「どう?面白かった?」と笑顔で子供たちに話しかけていた。水戸の町が生んだオーケストラ。子供たちにとっても故郷の思いの1片としてMCOが心に残ってもらえればと思う。

また、定期公演に先がけて、6月25日に大分県立総合文化センター「グランシアタ」で館外公演を実施した。およそ2000席の客席が埋め尽くされた。MCOは、小編成にもかかわらず大オーケストラに匹敵するダイナミクスと室内オーケストラならではの息のあったアンサンブルを聴かせ、聴衆を熱狂させた。《中村》アンケートから

彩雲 は東洋的な音色も含まれていて、とても感激。音をさがすのがとても楽しかった。オーボエ協奏曲は音色に感動。宮本さんと小澤さんの呼吸がすごく合っていて最高の人同士で感じる何かがあるのだらうなと思った。最後の曲はやはり水戸管はすごい!と感動のあらし。音楽のもつ可能性、さまざまな魅力に釘付けでした。(横浜市:M.I.さん) MCOのモーツァルトはやっぱり最高です!私がモーツァルトに開眼したのはMCOのおかげでした。宮本さんのオーボエもやっぱりいいですね。(水戸市:E.H.さん)

委嘱作品の 彩雲 は標題のとおり、色彩豊かな響きに魅了されました。特に木管と打楽器のアンサンブルが印象的でした。オーボエ協奏曲は見ているだけでも楽しい「ステージ”(まるでショーのよう!)でした。小澤さんと宮本さんのか

1~3. 水戸室内管弦楽団第49回定期演奏会 4. 水戸室内管弦楽団第50回定期演奏会公開リハーサル風景
5~8. 水戸室内管弦楽団第50回定期演奏会

けあい絶妙で、終楽章などは聴いている方も踊りだしたくなりました。宮本さんは登場のしかたから本当にエンターテイナーなんだと感じました。ハイドンははじめて聴いたが面白い曲だった。曲よし、指揮よし、演奏よしで三拍子そりいす。(水戸市:T.M.さん)

パブロ・カルテット(7月6日)

オリエンタルな衣装に身を包み、パブロ・カルテットの4人は颯爽とステージへ飛び出していった。彼らが演奏したのは、ピアソラ、アリ・ザデー、ゾーンといういずれも1980年代後半から90年代に書かれた、まさに「同時代」の作品と、20世紀の古典ともいえるラヴェルの弦楽四重奏曲。彼らを選んだのは、自分たちの視線で自由に、真っ直ぐに選んだ、本当に彼らにとって共感できる作品ばかりだったのではないだろうか。印象的だったのは、アリ・ザデー作品の演奏。電子音の使用や照明の演出なども加わり、異界とも言える演劇的な空間が創出された。彼らの純粹で、瑞々しい感性が心に残る演奏会であった。アンコールはJ.S.バッハ：G線上のアリア、ハーリン：星に願いを。《中村》アンケートからフレッシュな4人でした。プログラムも服装も斬新でした。特に面白かったのが2曲目のムガム・サヤビ。様々なことを想起しながら聴ける深い曲だと思いました。(無記名の方) 現代音楽のすばらしさに気付くことができたのは、何よりの収穫です。(日立市:A.T.さん) 現代作家のコンサートは初めてで、1曲目からドキリ!としました。なんだか、あのホールのバックに大きな絵を描きたくなりました。心弾みました。(水戸市:Y.K.さん) 若くて才能あふれる方たちの演奏を聴くのはとても嬉しいことでした。(日立市:K.O.さん)

グローブ座の音楽家たち(7月12日)

「ここはグローブ座に似ているね!」ACM劇場に入るや否や開口一番、フリップ・ピケット氏。そりゃそうです、なんといってもあなたがたのホーム・グラウンドをモデルに設計されたのですから! そのせいかメンバーのノリが、今回の日本公演の中でもひときりよかった...かどうかは不明ですが、客席が沸きに沸いたのは事実。もちろんその立役者は道化のバランジャー氏、開演前からお客様のチケットを奪って勝手に座席を指定したり怪しい日本語であいさつしたりやりたい放題。笑いに満ちたパフォーマンスと、ジョン・ランさんの涼やかな歌声そしてメンバー

たちの名人芸が交互に登場、劇場はシェイクスピア時代のグローブ座に姿を変えてゆくのでした。アンコールはルポ：マスク・ミュージックから“Move Now with Measur'd Sound”、“Time, That Leads the Fatal Round”の2曲。終演後にはピケット氏、ランさんによるサイン会を開催。《矢沢》アンケートからシェイクスピアの劇場にいるふんいきを味わえました。5年生の娘も楽しかったといっています(水戸市:K.N.さん) ACM劇場でやったのは大正解だと思いました。そしてジョン・バランジャーのプレイは最高でした。とことん笑わせ尽くした後のぴしっと締めたあのセリフ。できるならばアンコールはなしにしてほしかったほど(高萩市:無記名の方) ジョアン・ランの歌声が素晴らしかった。シェイクスピア劇が観たくなった(仙台市:K.K.さん)

加藤直子 ヴァイオリン・リサイタル(7月21日)

芸術館開館の90年と91年の安永徹によるヴァイオリン・セミナーの受講生であった加藤直子の、デビュー・リサイタルが開催された。芸術館では、世界中の優れた演奏家たちを紹介していく一方で、水戸を中心に茨城県内の新しい才能が世に出る為の一助ともなりたいという願いとともに、活動を行ってきている。だから、今回の演奏会は芸術館にとっても、ひとつの理想の実現であったと言える。この日の加藤の演奏は、デビュー公演にふさわしい、力強く羽ばたいていくかのようなエネルギーに満ちていた。プログラムは、モーツァルト、ベートーヴェン、プロコフィエフ、チャイコフスキ、パッジーニの5曲。曲想もスタイルも異なるこれらの傑作群を、加藤は大いなる説得力をもって見事に弾き分けていった。アンコールは、ヤナーチェク：ピアノ曲集 草陰の小道にて より” 散りゆく木の葉 ”のヴァイオリン編曲版。《中村》アンケートから雰囲気をつくらうとせず、一演奏家としての自然な姿に共感。(無記名の方) 中学を卒業してからクラシックが好きになって、美しい瞬間を寄せ集めてそれが流れているような、キラキラした音楽だなど思うようになった。そういう“キラキラ”が今日の直子ちゃんにもあって、すてきだと思いました。(横浜市:N.K.さん) 入院中ですが、特別に外出の許可をいただいて参りました。若さあふれるコンサート、これから益々のご活躍をお祈りいたしております。素敵な音楽にふれ、病気も治りそうです。(ひたちなか市:S.S.さん)

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7



information

チケットに関するお問い合わせ

...水戸芸術館チケット予約センター / 029-231-8000
営業時間 / 9:30 ~ 18:00(月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

...水戸芸術館音楽部門 / 029-227-8118

【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

【アートタワー通信】第1・第3週に1度、新しいばらき新聞に登場。

MCO定演・NHK放映

事後報告になってしまったことをまずお詫び申し上げます！ 去る8月16日(金)朝8時5分より、NHK・BS2「ワンダフル・クラシックス」にて、昨年11月24日に収録された水戸室内管弦楽団第48回定期演奏会(指揮:トレヴァー・ピノック)が放映されました。NHKからの放映日決定の連絡が前号のvivo発送後だったため、vivo紙面であらかじめお知らせすることができませんでした。ネット配信「ATM速報」を定期購読された方は速報としてご覧いただけたと思います。「ATM速報」の速報性にvivo編集部としてはちょっと嫉妬を覚えつつ、より速い情報が入り手できる同速報は便利ですよ！とお勧めしておきます。もちろんvivo紙上でも再放映の機会があったら必ずお知らせします！

チケット・インフォメーション 9月7日(土)発売分

水戸室内管弦楽団第51回定期演奏会
11/9(土)18:30開演、11/10(日)14:00開演
料金(全席指定):S席¥6,000 A席¥5,000 B席¥3,500
水戸室内管弦楽団第52回定期演奏会
11/23(土)18:30開演、11/24(日)14:00開演
料金(全席指定):S席¥10,000 A席¥8,000 B席¥6,000
第51回と第52回のセット券(限定200セット):
S席¥14,000 A席¥11,000
水戸室内管弦楽団定期演奏会には、9月4日(水)より友の会の先行電話予約があります。

これからの演奏会・残席情報

○...残席あり(20席以上) ...残席わずか(20席未満) x...残席なし 中央...中央ブロック 左右・裏...左右ブロックおよびステージ裏 補助...補助席

矢部昌子 ピアノ・リサイタル 9/8(日) ...自由席
畑中良輔の 日本のおた セミナー 第2期
9/14(土)...自由席 12/7(土)...自由席
2003年3/15(土)...自由席
小さな聴き手たちへ お話しピアノ ピーターとおおかみ
9/28(土) ...自由席
茨城の名手・名歌手たち 第13回 9/29(日) ...自由席
宮本文昭 オーボエ・リサイタル 10/5(土) ...中央x、左右・裏
パーバラ・ボニー ソプラノ・リサイタル
10/14(月) ...中央x、左右、裏
ミト・デラルコ 第5回演奏会 10/12(土) ...中央x、左右・裏
野村 誠&箏衛門 コンサート 10/20(日) ...自由席
マリー - クレール・アラン オルガン・リサイタル
10/28(月) ...1F、2F x
8/15(木)現在の状況です。

公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問い合わせ下さい。

固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

ネットマは今月、夏休みをいただきます！

水戸芸術館9月のスケジュール

コンサートホールATM

矢部昌子 ピアノ・リサイタル
9/8(日)14:00開演 料金(全席自由):¥2,000
畑中良輔の 日本のおた セミナー 第2期「山田耕筰III」
9/14(土)14:00開始 料金(全席自由):¥1,500 / 第2期通し券¥3,600
小さな聴き手たちへ お話しピアノ ピーターとおおかみ
9/28(土)14:00開演 料金(全席自由):大人¥2,500 小・中・高生¥1,000
茨城の名手・名歌手たち 第13回
9/29(日)17:00開演 料金(全席自由):¥1,500

エントランスホール

パイプオルガン プロムナード・コンサート
9/1(日)12:00 / 13:30 9/21(土)13:30 / 15:00
宴や夜市(泉町商店会)関連企画
9/27(金)18:00
入場無料 演奏は各回20分程度です。

ACM劇場

日本映画が好き2002 9/7(土)10:00 ~ 「稲妻」12:00 ~ 「晩春」
9/8(日)10:00 ~ 「華岡青洲の妻」12:00 ~ 「サンダカン八番娼館 望郷」
料金(全席自由):前売¥450 当日¥500(当日の出入り自由)
第17回水戸映画祭 9/7(土)14:20 ~ 「神様がくれた酒 セクシードリンク大作戦」16:30 ~ 「THE COLOR OF LIFE」18:40 ~ 「殺し屋1」
9/8(日)14:30 ~ 「ハッシュ!」17:00 ~ 「とらばいゆ」19:20 ~ 「クロエ」
料金(全席自由):前売¥900 当日¥1,000(各回入替制) / 1日通し券¥2,500(1日限り3作品鑑賞)
第6回水戸短編映像祭
招待作品部門(3プログラム) 9/14(土)、9/15(日)各日13:00 ~
料金(全席自由):¥1,000(各回入替制) / 1日有効フリーパス¥2,500
コンペティション部門 9/16(月)12:00 ~
料金(全席自由):1日通し券¥1,000

現代美術センター

カフェ・イン・水戸 CAFE in Mito(Communicable Action For Everybody)
8/10(土) ~ 9/23(月)9:30 ~ 18:00(入場は17:30まで)休館日:月曜日
ただし9/16・23(月)は開館、9/3・17(火)は休館
入場料:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600 中学生以下、65歳以上、心身障害者の方は無料

茨城の主な9月の演奏会

佐川文庫 TEL / 029(309)5020 佐川文庫サロン・コンサート 永島義男 コントラバス・コンサート 9/28(土)18:00開演

ひたちなか市文化会館 TEL / 029(275)1122 錦織 健 テノールリサイタル 9/16(月)15:00開演

日立シビックセンター TEL / 0294(24)7711 千住真理子 ヴァイオリン・リサイタル 9/20(金)18:30開演 ~ 日立出身の音楽家と子どもたちの交流 ~ 田沢 烈と日本フィルの仲間たち 9/23(月)14:00開演

日立市民会館 TEL / 0294(22)6481 ファード・アブダラ レバノン芸術団 9/7(土)18:30開演(問)MIN - ON日立 TEL / 0294(21)6624

常陸太田市民交流文化センター・パルティホール TEL / 0294(73)1234 NHK交響楽団トップメンバーによる金管五重奏団コンサート 9/21(土)14:00開演

ノバホール TEL / 0298(52)5881 岡田博美 ピアノ・リサイタル 9/15(日)15:00開演 レイフ・オヴェ・アンズネス ピアノリサイタル 9/23(月)15:00開演(問)つくばコンサート実行委員会 TEL / 0298(52)6470

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ] 2002年9月発行 第84号
編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp]
編集 / 水戸芸術館音楽部門(五十音順):関根哲也 中崎美智代 中村 晃 馬場千恵
松田善幸 矢沢孝樹(編集長)

DTP / office west
印刷所 / 株式会社あけぼの印刷社

次号は...
MDA、ボニー、アラン、野村誠...10月のATMは盛り沢山!